

## 貞安上人 ていあん・しょうにん [1539 ~ 1615]

### ——安土宗論の立役者

伊庭 妙金剛寺の本堂前の北側に、「貞安上人墓」が建っています。貞安は相模の生まれで、能登の国の西光寺に住んでいましたが、戦乱を避け、近江にやってきて、織山の麓の金剛寺に住んでいました。

天正7年(1579)5月27日、安土で浄土宗の僧に法華宗徒が宗論を仕掛けました。これを知った織田信長は自分の面前で宗論をして優劣をつけよと命じました。このとき、浄土宗側の西念を助け、法華宗の日暁・不伝と浄厳院で対決したのが貞安です。

宗論は浄土宗の勝ちとなったため、信長はこれをほめ、軍団扇と「妙」の字を与えたので、これ以後「妙金剛寺」と称するようになったと伝えられています。

さらに、このことにより貞安は安土山の下に寺地をもらい、大雲院西光寺を創建しました(のちに近江八幡に移転)。このため、貞安の名声は大いにあがり、のち都に上って、大雲院の開山となりました。



貞安上人(近江八幡市・西光寺)



貞安の墓(伊庭・妙金剛寺)

## 徳永寿昌法印 とくながじゅしょう・ほういん [1549 ~ 1612]

### ——民政に尽くした郷土出身の戦国武将

町内能登川は、他の村とはやや異なる町並みです。それは朝鮮人街道に面して、間口5間(約9メートル)奥行き10間(約18メートル)の屋敷割が整然となされており、さらに道路から7~8メートル奥に、道路に並行して幅30~50センチ位の水路を掘り、伊庭川から分水した水を流し、生活用水としているからです。

このような現代にも通じる計画的な町並作りを行ったのが、徳永寿昌という領主で、いまま法印の業績をたたえる法要が行われています。

寿昌は父の後を継いで、伊庭庄の領主となり、最初は柴田勝家の甥・勝豊につき、のち秀吉に仕え、美濃高須で3万石を領しました。

### 文禄・慶長

の朝鮮出兵の際には、兵をまとめて帰国させました。

その後、家康に重く用いられ、関ヶ原の合戦には東軍に加わり、その功によって、美濃高須・5万5000石の大名となりました。

また、神仏を敬う心が篤く、晩年には仏道に入り、法印となりました。

### 新造・修復

した社寺も多く、地元の大浜神社・望湖神社や、岐阜赤坂の明星輪寺(虚空蔵)岐阜高須の天神社・養老寺などがあります。



徳永寿昌の墓(織山中)



能登川の水路

## 今堀大典禪師 いまほりだいてん・ぜんし [1719~1801]

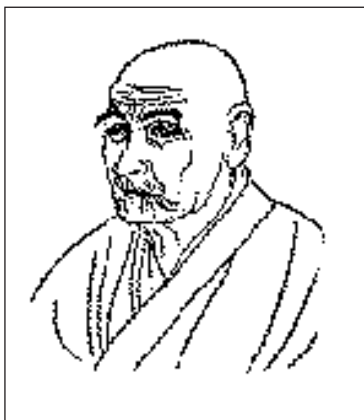
—— 日韓の国交に尽くした五山文学の禪僧

能登川西小学校運動場のすみに、仙台石の立派な碑が建っていますが、これはのちに相国寺の寺主（管長）となった大典の顕彰碑です。

この碑の表には、小楠公・楠正行をたたえた大典の詩が刻んであります。これは京都臨濟宗相国寺派の管長山崎大耕師の筆によるものです。また、裏側には大典の略伝を記してありますが、これによると、大典は伊庭の儒医・今堀東安の子として生まれ、8歳のとき京に上り、11歳のときには相国寺の独峰和尚の下で得度し、安永8年（1779）には相国寺第113代の寺主となりました。また天明元年（1781）には、漢詩文に長じていたので、幕府の命を受けて、対馬に渡り、日本と韓国の外交の文書をつかさどり、日韓友好に力を尽くしました。

昭和12年（1937）には有志が集まり、郷里の生んだ偉人を顕彰するため、孝経の一字を一石に記し、基礎に埋め、その上にこの碑を建てました。

大典の墓は相国寺内塔頭・慈雲院の墓地の一角にあり、その隣には大典が碑文を記した伊藤若冲（画家）の墓が建てられています。



今堀大典禪師



▲西小学校と詩碑

## 種村箕山 たねむら・きざん [1720~1800]

—— 藩士の地位を捨て、子弟の教育に専念

町内北須田、もと野上火葬場の南側に墓地があり、その一角に「種村箕山先生之墓」が建っています。

墓は非常に古びていますが、その側面に蘭洲 乗徳の記した碑文が刻まれています。

種村氏は伊庭氏の分かれて、子孫は彦根候に仕えており、箕山もこの子孫と考えられます。

この碑面によると、箕山の父は種村靖甫と言ひ、母は糟淵氏、幼いときから学を好み、沢村琴所の教えを受けました。17歳で藩の試計吏となり、父が役を退くと、その後を受けて計吏となりましたが、清廉潔白で、事にあたるという評判がありました。

また、藩命により、愛知郡平柳付近の荒れ地を開いて新田を開発するなどの功がありました。藩と意見が合わないため、その職を去ったと言われています。

その後、箕作山の麓に住み、白雲堂と名づけました。のちに能登川に移り、子弟の教育に尽力しました。

父母を大切にし、子弟・門弟を可愛がりましたので、その死後に、門人たちが集まってこの墓を建てたと言われています。



種村箕山の墓

